

カトリック 仙台教区報

2015年7月12日 No.224
 発行
 カトリック仙台司教区
 〒980-0014
 仙台市青葉区本町 1-2-12
 Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378
 発行責任 広報委員会
 URL <http://sendai.catholic.jp/>

私の奉献生活

神の霊が、平和と喜びをのべ伝えるために、私を派遣された

シャルル・エメ・ボルデュック神父

(ケベック外国宣教会・第7地区担当)

私が司祭に叙階されたのは、今から45年前、1970年5月24日のことでした。叙階式の入祭の歌が、今も私の心に響いています。

「神の霊がわたしのの上に、神の霊がわたしを選び、神の霊がわたしを識別し、世に平和と喜びを伝えるために派遣した」(イザヤ61・1・2)と。

45年過ぎて、振り返ってみると、まさしく神の霊が私を導いてくださったのだと感じます。

私は、毎日、アシジのフランシスコの平和の祈りを唱え、どこにいても平和の道具となるように、喜びを分かち合っていました。

神の霊が、カナダから日本まで私を派遣し、この45年間、障がいのある子どもたち、寝たきりのご病人、さまざまな悩みを持つている人々など、多くの方がたのかかりの中で歩いてまいりました。



ミサを終えて退場するエメ神父 (中央)

て、神の霊が教会の中に存在し、教皇様を通し、司教様を通し、司祭を通し、信徒を通して語りかけていることを信じる者として、神の霊に耳を傾けることが必要だと思っっています。

私たちは 奉献生活者 として、どこに行っても、誰に会っても、福音の喜びを分かち合う使命を持っています。また、分裂がある世界、社会、教会の中に一致を実現するようにといい使命も持っています。さらに、

- 「慰めよ、わたしの民を慰めよとあなたたちの神は言われる」
- 「東日本大震災被災者
- 「末期ガンの患者
- 「親しい人が亡くなった人
- 「依存症で悩む人
- 「いじめられている人
- 「ホームレスの人
- 「ホームシックの外国人の人
- 「安い賃金で生活に困っている人、など」

「あなた方は行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28・19・20)。

生命の泉

「私の宗教はコンパッション(共感です)。(スペイン育ちのイランの女子留学生・朝日新聞6月6日掲載)とは私たちの信仰をよく表している。確かにこの「共感」によって受肉の神と結ばれ、また隣人と共に生きる▼5月

22日アイランドで同性婚についての国民投票が行われ、容認する賛成が62%に達して反対票38%を大きく上回った。この結果にバチカンが懸念を表明した▼昨今性的マインオリティが社会的な理解を求める活動は盛んだ。教会はそのような人々を社会的弱者として理解するように努めてきたが、十分ではない。これらの人々の傾向は何に起因しているのだろうか。新しい理解が生まれ、対処の仕方に進展がみられるからだ。性的少数派は76%程だというが、これまでのように当人の自覚と責任信仰的には「罪」と考えられてきたに帰するだけでは不十分だ▼最近、アルコール、タバコ、ギャンブル、また薬物の過剰な摂取などは依存症として病気として扱ってべきだとする見解も聞くべき意見である。また、恋愛、親子、友人など人間に関わることも共依存症として社会的な歪みを反映して深刻だ▼これまで教会の姿勢は司牧的な配慮から多数派への影響を食い止めることにあった。しかし、福音本来の立場に立つなら様々な弱者への共感と理解が基本にならなければならない▼さる6月5日、妻からの訴えに欧州人権裁判所は7年前の交通事故で植物状態にある45歳のヴァンサン・ランペールさんの生命維持装置を取り外すことを認めた。しかし、母親は不服として新たに裁判を起こすという▼私たちは生きていく過程で難しい問題の当事者となって決断を迫られることもある。教会はそれらの人々としっかり寄り添いたい。(守)

第11回ハンセン病市民学会に参加して

仙台教区人権を考える委員会

5月9日～10日、多磨全生園・駿河療養所で開催された第11回ハンセン病市民学会に参加しました。昨年、この市民学会が群馬県草津町で開催中に、

神(こう)美知宏さん(全療協会長)、碓(す)こだま雄二さん(ハンセン病違憲国賠訴訟・全国原告団協議会会長)という大切な共同代表を喪いました。お二人が切望し、最後まで奔走され「遺言」となった「バトンをつ

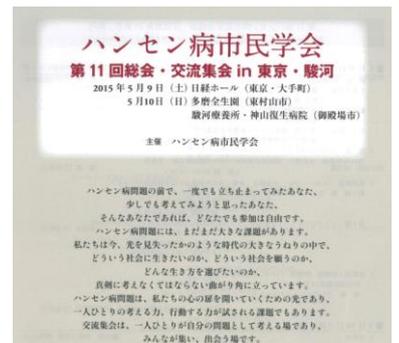
なごう」当事者運動と市民のなかかわり」が今年のテーマでした。

ハンセン病は治る病気になりましたが、単に疾患の問題ではなく、法律や国の隔離政策の問題があり、無らい県運動など偏見差別を生んだ社会の問題があります。現在は当事者から話を聞く最後の機会であり、多くの人々の苦しみを、忘れて無かったことにしてしまうのか、

きちんと伝えて行くのか、大事に分かれ道に立っています。市民学会では、当事者の高齢化と自治活動の弱体化や生活の不安、市民やマスコミ報道をはじめとする社会の関心の希薄化、療養所をそこで生きた人たちの証・負の歴史を伝える場としてどう残すのかなどを課題として議論が行われました。国は、入所者がたとえ1人になっても療養所を維持すること、そのための将来構想の具体化、納骨堂は国が維持管理を続けることを約束したそうです。し

かしそれ以外は何も決まっていません。療養所を歴史遺産として登録する運動を通じて、そこで何が行われよう生きたのかを残そうという提案がありました。神山復生病院を訪問した際、「復生記念館」のカトリック宣教の歴史資料の中に、当時訪問された神学生の写真に、土井文雄師(神学生)が写っていて、感動しました。

内外の信徒が毎月ミサに集っています。これらで多くの方々療養所で暮らし、司祭や修道者、信徒が様々なかわりを持ってきました。信者として何が出来るか。仙台教区人権を考える委員会では、平賀司教様の諮問に答える「答申書」でその提案をしています。ご意見ご協力をいただければ幸いです。



人を大切にする

司教 平賀 徹夫



去る5月30日(土)、社会司教委員会主催のシンポジウムで札幌へ行きました。日帰りのつもりでしたが体調がおかしくなって入院する羽目になり、それが伝わった皆様には大変なご心配とご迷惑をお掛けしてしまいました。脳梗塞寸前だったようです。救急車で運ばれての入院当初、お医者さんから「2週間くらいか、1カ月かかるか、それ以上か」などといわれました。MRI検査を4回ほど受け、結果的には「治癒に近い状態」になったということで17日目で退院が許されました。仙台に帰ってお会いした信者の方どなたからも、「心配で、お祈りをしましたよ」との温かいお言葉をいただきました。

ご心配いただき、お祈りで助けていただきましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

さてその入院中、とても感心したことがあります。職員の方々がとても親切・丁寧に患者に接してくれるのです。看護師さん(男性も女性も)、技師、栄養士、事務の人、掃除係の人等、どの人も、明るい声での挨拶をはじめ、一つ一つの仕事にあたって親切・丁寧を徹底して心掛けていました。退院時に、もしよろしければお答えください、とアンケート用紙を渡されましたが、その問いの一つに「この病院を紹介したいと思いますか」というものもあり、親切・丁寧は病院全体での取り組みとしているのだな、と思いました。

その病院の案内にはカトリックあるいはキリスト教と関係あるような言葉は出てきません。もっとも、どこの病院でも、あるいは病院に限らず社会の中のどんな職場や組織でも、人を相手とするところでは当然のことながら「人を大切にする」ことの価値ないし善さは認められ、実践されているのでしょうか。その良い例を見せてもらった思いがしました。

国だけに任せず地域住民がボランティアで療養所の緑や歴史的建造物を維持保存する運動、保育園や特養老人ホームなどの療養所内への誘致など、先進的な事例を実現されている方々からの報告がありました。世代や国境を越え「交流」という形で中国や台湾、インドなどのハンセン病回復者を支援する学生たちの活動報告もありました。

- カトリック仙台教区はどうでしょうか。教区には青森県内の松丘教会、宮城県内の新生園教会があり、療養所
- 7・1 被災地支援全国会議
 - 3 学校法人 園長会
 - 6 部落差別人権委・事務局会議
 - 7 8 東京管区会議
 - 10 5 11 部落差別人権委・全国会議
 - 14 司祭評議員会・司祭団役員会
 - 18 人権を考える委員会
 - 18 宣教司牧評・役員会
 - 27 司祭団 月例会
 - 31 全ベース会議 サポート会議
 - 8・9 平和旬間ミサ
 - 11 司祭評定例会・司祭団役員会
 - 15 (聖母被昇天)
 - 17 宮城県カトリック幼連研修会
 - 20 学法理事會
 - 31 仙台教区司祭の集い

司教日程 7月・8月

(仙台教区人権を考える委員会 御供真人、高田明子)

地区だより

仙台教区の地区制が始まって、1年余りが過ぎました。教区報では、各地区の活動や、地区としての取り組みなどを紹介するために「地区だより」のページを設けることにしました。毎号、2つの地区を取り上げて行こうと考えています。今回は、第5地区と第6地区を紹介いたします。

Ⅱ第5地区Ⅱ

教区報223号でも、紹介しましたが、正式な「第5地区通信」創刊号が5月3日に発行されました。互いの共同体の歩みに敬意を払いつつ、刺激を受け止め合い、その歩みやがて情報を共有する、ゆるやかな共同体になっていくことを願っています。

＜塩釜教会＞

塩釜市今宮町仮設集会所で毎週火曜日、被災者の方々10名位と「心の港」の方々にも手伝っていただき、15名余りでそれぞれ持ち寄った美味しい「馳走」、お菓子をいただきながら、おしゃべりに花が咲き、時にはお料理講習会・フランス語講座・歌合戦など笑いに包まれ、大いにストレスを発散しております。毎月の誕生会も楽しい時間を過ごしています。



枝の主に、遠く、奄美大島から送られてきたソテツの枝を携えた信者たちが

教会脇の駐車場に集まり、森田直樹神父から枝の祝福を受けた写真Ⅱ。

高く掲げられた枝先に陽光がきらめき、聖水が宿った。聖書朗読のあと、枝で美しく飾られた十字架を先頭に全員で「ダビドの子イサエルの王にホザンナ」と歌いながら、教会玄関口まで行列を作って歩いた。

＜古川教会＞

昨年、復活節の土曜日に、可愛いお嬢さんが教会見学に見えました。翌日「神のいづくしみの主日」に初めてミサに参加されました。聖書の勉強、主日のミサ、教会行事への参加……。年寄りばかりの教会に、笑顔で通われ、今年の復活徹夜祭に洗礼を受け、新しい家族の一員になりました。神様が送って下さった宝物だと思えます。

＜北仙台教会＞

北仙台教会の復活徹夜祭では1名の方が受洗されました。みんな喜び祝福いたしました。



復活祭当日はあいにくの雨でした。復活お祝いのくす玉割りを盛大に行なうところですが、規模縮小で、聖堂入口で北仙台の未来を担う若者たちⅡ写真Ⅱが紅白の玉をぶつけてくす玉を割ってくれました。中からおもしろそうなキャンディが出てきて大喜び。

＜石巻教会＞

復活の主日には多くの方が集まりました。この日に選ばれた聖歌『ガリラヤの風かおる丘で』に始まり『アレルヤ』、閉祭には『よるこびうたえアレルヤ』を声高らかに歌いました。

もちろん「主の祈り」は三カ国語で歌われました。いつもよりこの日は心に残る歌声でした。

＜西仙台教会＞

西仙台教会で、成人洗礼が行なわれたのは久しぶりの事と思えます。「諸聖人の連願」を静かな聖堂で皆と唱えていると、なにかジーンとくるものがありました。気心の知れた人に囲まれてひっそりと洗礼を受けるといってもジワ〜とくるものがあります。

(以上「第5地区通信」より)

Ⅱ第6地区Ⅱ

第6地区は、年4回の頻度で、原則的にそれぞれの教会をめぐり、連絡協議会を開催している。また、在仙4教会は開催場所を順番にまわりながら、年6回連絡会を開催している。

5月9日(土)開催の連絡協議

会で地区制移行1年を経ての感想は以下のものであった。

1. 地区制移行により、主日ミサを各小教区で滞りなく実施できるようになり、集会祭儀や近隣教会の主日が殆どなくなった。
2. 県南4教会や原町教会では在仙4教会との交流の機会が以前より増えた。
3. 一方、在仙4教会側に県南4



合同堅信式

24時間を主にささげる24時間と定め、全世界の聖職者・修道者・信徒へ向け祈りをささげるようにメッセージを発信された。それを受け、カテドラルでは、14日(土)16時から「聖体顕示と招きの言葉」が平賀徹夫司教の司式で行われ約150人が参加し、同日18時から「四旬節第4主日ミサ」が同司教の司式で行われ約150人が参加した。

○「東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願ミサ」Ⅱ写真Ⅱ約90名の参加者が集い、3月15日に原町教会でミサがささげられた。司式は札幌教区の勝谷太治司教であった。

○「合同堅信式」5月24日に第6地区9教会合同典

制が確立し、軌道に乗りつつある。5. 青少年に関わる活動(教会学校、中高生会、青年会等)については、担当者の努力はあるにも拘らず、該当世代の減少、担当者数、その他で手薄感が出ている。最近の第6地区合同の行事のいくつかについて報告する。

○「主にささげる24時間」フランシスコ教皇が3月13日の金曜日から14日の土曜日までの

礼として聖霊降臨ミサと合同堅信式が元寺小路教会で実施された。平賀徹夫司教の司式と小野寺神父、小松神父、渡辺神父、ロワゼル神父、ホセ神父、狩浦神父が一堂に会しての合同典礼であった。ミサ中に堅信式が行われ、14人の方が堅信を受けられたⅡ写真Ⅱ。元寺小路教会が12人、八木山教会が1人、白石教会が1人。合同典礼終了後、聖堂前の広場で簡単な飲み物で第6地区信徒の交流会が持たれた。(八木山 新村 信雄)

召命フェスティバル

今年「奉献生活の年」。「奉献生活者が集まり、何かしませんか」という有志の声掛けから、4月27日の世界召命祈願日の前日に当たる4月26日(土)、午前10時から「召命フェスティバル」が元寺小路教会で開かれました。

「奉献生活者って誰?」と思われ方も多いことでしょう。第2バチカン公会議以後、「修道者」とか「修道会」という言葉は、「奉献生活者」「奉献生活の会」と呼ばれるようになってきました。

仙台市内の奉献生活者の会は、修道会、宣教会、奉献者会合わせて13の会があり、そこから全部の関係者が参加してくださいました。



グアダルペ会の説明をするホセ神父



各会・団体の方々は9時前から、前庭にテントを張り、机を置き、各自の会や団体を紹介するポスターやパネルを貼り、準備をしました。

受付は9時から始まり、10時にホセ神父様の挨拶、祈りの後、ラ・サール会のBr.ロドリゴによるパワーポイントを用いた、教皇フランシスコの奉献生活の年についてのメッセージの紹介。その後、各修道会・団体の紹介。持ち時間は各会4分というところで始められたのですが、大幅な時間オーバー。

召命のための祈りを唱えたあとは、「ラリーで知ろう修道会を」ということで、約30人の参加者が各会のテントを回り、楽しいラリーでこのフェスティバルは終了いたしました。準備した各修道会のシスターや神父様

方は、「集まりの周知徹底の間が1週間しかなかったので、残念だった」「今度はお知らせする時間が十分あればよい」という声や「1回だけで終わらせるのはもったいない。またしましょう」という声が寄せられていました。

「あけの星会・総会」

2015年度カトリック仙塩地区連合婦人会総会が、6月21日(日)元寺小路教会大聖堂を会場に、110名の会員がごぞいしました。写真。仙塩地区の8教会の各教会がメンバーで、あけの星会を創設してから50年あまりの活動を引き継いでいます。



その中で私たちは、小教区内に留まらず互いに助け合うことを教えられてきました。

昨年度は、活動の拠り所である分担金について、教会毎の事情に

「戦後70年司教団メッセージを読んで」



日本カトリック司教団は去る2月25日に「司教団メッセージ」を発表しました。

2月25日という日は、教皇ヨハネ・パウロ二世が広島において「平和アピール」を出された記念すべき日です。司教団メッセージは歴代教皇の平和への思いに触れながら、今こそ政治的イデオロギーを越えて「人間のいのち」の問題として真剣に取り組まなければならないと訴えています。

戦後70年を経た現在、戦争の記憶が遠いものとなり、忘れ去られていく危険を痛切に感じます。戦争や紛争は当事国の一般住民に大きな被害を与えるばかりでなく戦場で戦う兵士たちにも深刻な状況をもたらします。イラクや紛争地から帰還した兵士の多くが強いストレスに悩まされ、自殺する例が報告されています。

野の花、空の鳥のいのちさえ大切にされる神様が、人間の「いのち」が戦争によって無残に失われていくのを、どれ程の思いでご覧になっておられるでしょうか。

地球を大事にする会 Sr 小川敦子

合わせた金額をお願いすることができました。そして、日本カトリック女性団体連盟への初参加は40年前にさかのぼり、各地の方とつながりを持っていきます。今回の大震災では南三陸町支援に、調布・福岡・熊本等からのご支援を受ける窓口となつて、現地に希望の品をお届けしています。

総会では、年間の行事等の報告と決算・予算の審議をいただき、昼食の交流をはさみ「食の霊性」の演題で、聖ウルスラ修道会 Sr.金子黎子氏のお話を聞きました。写真。



「いただきます」「ちそうさま」の言葉の重さに改めて気づかされました。感謝!

あけの星会の行事には、男女年齢所属教会を問わず参加ができます。9月29日に巡礼、11月18日に黙想会を計画しています。あけの星会役員にお申し込み下さい。

(元寺小路教会 阿部利枝)

自然とのかかわり (高森草庵の取組み)

講師に渡邊 裕成 神父を迎えて 地球を大事にする会

5月30日(土) 北仙台教会口ゴス研究所で開かれた「地球を大事にする会」第46回例会では、故押田成人神父が創設した高森草庵と関わっている渡邊裕成師(ドミニコ会)を招いてお話を伺った。参加者は20名。



渡邊師「写真」の話は、高森草庵のミサ、あるいは作業の時などに良く歌われる「お水のうた」の紹介(詠唱)から始まった。水と稲を育てる自然の賛歌であり、素朴な節回しは「詠歌に似たような印象を受けた。



高森草庵

続いて、高森草庵に関わるようになってきた経緯の説明があった。1980年代にネパールのチベット難民キャンプで算数を教える手伝いをしたのが、そのきっかけとなった。ネパールは経済的には世界最貧国であったが、隣接するインドとは異なり都市にはスラムがなく、飢えて死ぬ人もいなかった。

これは農業を中心とした自給自足の生活をしてきたからだ。自分の手で土地を耕し食べていくことの大切さを学んだ。日本に帰り高森草庵を知った時、自分たちで共に耕し糧を得て生活する場が日本

にもあったことに驚いた。押田神父との出会いによって生きる種をもらった。米づくりは種もみを発芽させることから始まり、苗まで育ててから田植えになる。ちょうど先週田植えを終えたばかりである。やがて収穫の時を迎え、「大地の恵み」に感謝する。自然の循環との調和が失われてきた現代に、押田神父の言葉が私の内に響いている。「経済というのは、必要があるところに本物を与えるものである。しかし現代社会では、必要のないところに代用品を、人々の欲望を駆り立てて与えている。これは人間破壊の道だ。私たちにできることは根源に立ち帰ることだけだ。」

3・11のとき韓国にいたが、帰国後には福島方面によく出かけている。原発のことが聖書と重なり、高森とも重なる。原発を今まで稼働させたことで、広島型原発の120万個分に相当する放射性廃棄物を生み出した。今後10数万

年も保管しなければならぬとのこと、このような負債を次の世代に押し付けることになった。このように狂った状態としか言えない世界にあって、私たちにできることは根源に立ち返ること、この道行を皆さんと共に歩んでいけますように。

押田神父が言う「根源に立ち返る」とは、かけがいのないものの無償の与え合いであり「神の祠(ほこら)の深みへと歩み行く」こと。神のうちに留まる(ヨハネ15章、神の祠の中に留まることではないか。

カンボジア・ステンミエンチャイ地区での活動報告⑧

元寺小路教会 小野 武



響きわたる声が、目を閉じると鮮明に浮かびあがります。とても将来が楽しみなので、大きくなったらどんな仕事をしたか尋ねました。年齢的に無理な質問かと思いましたが、なんと工員・医者・タクシー運転手・車修理工・ボクサー・先生・美容師・売り子とさまざまな夢を話してくれました。親のごみ山の仕事を希望する子は、一人もいませんでした。子どもたちが国の将来を、でも、お母さんの力が必要

J L M M (日本カトリック信徒宣教師会) からカンボジアへ派遣され、2011年7月6日から2013年7月5日までの2年間の幼児教育支援活動について、8回に分けて報告させていただきました。

100人の孫たち、そして将来になりたい仕事は? 2年間で共に過ごした子どもたちは、多い日は100名を数えました。ちなみに、日本には、5人の孫がいます。カンボジアの子どもたちは、私を「ター」(おじいちゃん)と呼んで抱きついてきました。黒い瞳が輝き、クメール語の発音練習では、村中にコーラスのように

日々登校する子どもが40名から90名の間で変動します。なぜ出席する子どもも人数が変動するのか、最初、私には分かりませんでした。それは、学校に行く、行かないは子ども任せになっているからなのです。この地区の親は、その日の暮らに忙しく、子どもの教育を考える余裕がないのです。子どもたちは、年長になると絵本を読んだり、三桁の足し算、引き算が出来るようになります。子どもたちの持っている能力は、カンボジアでも日本と差がなく、学ぶ機会の違いがあるだけだと思います。そこで、母親センターを作り、お母さん方に教育の大切さについて気付いていただくため、セミナーを行っています。

カンボジアへの派遣に感謝 人生70年の歩みの中の2年間と短い期間ではありましたが、貧しいけど素朴で心豊かな人々と、共に過ごせたことは、とても貴重で心洗われる思いがしました。このような機会を与えていただいた恵みと、元寺小路教会での派遣式をはじめ多くのみなさまに支えられて活動出来たことを感謝しています。

2年間の活動記録をスライドに収めています。もしご覧になりたい方がおられましたらお声を掛けてください。お読みいただきありがとうございます。 (完)



神々も人々も

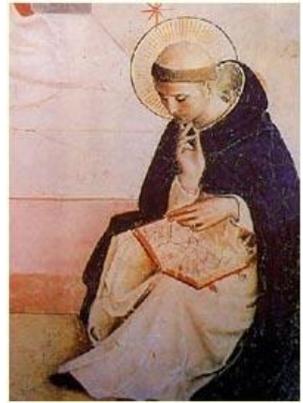
ドミニコ会創立800年記念パーティー

スール・マリア・ベネディクタ 武田教子

仙台ロゴス研究所主催の第25回公開講演会が去る5月24日、聖ドミニコ女子修道会武田教子氏を講師に迎え、55名の参加を得て開催された。

1216年、ドミニコがフランスのトゥールーズに会を置き、会とその目的である説教、それに伴う特典を教皇に願ひ、勅書を受かつてから、来年でちょうど800年になります。

ドミニコは、教会の中にこれまで存在しなかったタイプの会、激しい変化の中にあつた13世紀がまさに必要とした会を創立しました。しかもそれは、第4ラテラノ公会議に



において、あまりにも多くの会や派が乱立したことにより、新しいことはすべて禁止されたところでの出発でした。ドミニコは改革者と言つていいと思うのですが、ドミニコの大きな特徴は、その改革、それまで無かつた新しいことを、教会のただ中で、常に教皇と一致して、その承認のもとで行つたことです。

そのひとつが修道院の立地です。それまでは、修道院は人里離れた囲いの中にあり、修道者は使命を帯びて囲いの外に出ることはあつても、使命を終えたらできるだけ早く囲いに戻るのが常でした。しかし、ドミニコは街の中に修道院を建てました。

ドミニコの会員たちは「囲い」を持たず、町から町へ、村から村へ、遠く地の果てまでも福音を告げるために行脚しました。

もうひとつの改革と言うべきものは、典礼に関するものです。当時の規則では典礼祭儀を行うためには、教会が必要で、教会には固定祭壇がなければなりません。ドミニコは、まだ教会の無い地方の宣教のために、移動祭壇の許可を教皇庁からもらいました。典礼は現在のように統一されておらず、司教によって定められていたので、司教区によって違つていました。司教区が変わるとミサの挙げ方も変えなければなりません。ドミニコはドミニコ会としての典礼の許可をもらひ、会員はどこでもその典礼に従つてミサを挙げることができるようになりました。会発足時の規則の最初に、ドミニコが書いた、あるいは少なくともドミニコの意向を受けて書かれたのに違ひない次の一文があります。

「我々の会は、はじめから説教と靈魂の救ひのために建てられたものであり、我々の勉学も、本来、熱烈に、力の限り、我々を隣人の靈魂に益ある者とすることを目指さなければならぬことを知るべきである。」また、ドミニコが書いたものとして珍しく残つている「ポーランド管区の院長と共同体に宛てた手紙」

の中に、「福音を説教するため準備された人々よ」という呼びかけがあります。いずれもドミニコ会は人々に神のことは、いのちのことは、即ち福音を伝え、人々を神に向かわせることを目的とした会であることは明確です。これが教会を動かす力となつたのです。

ドミニコは司祭の会だけを創つたわけではありません。それどころか、最初の創立は女子の隠棲修道院でした。そしてそこは「説教センター」であり、既婚者、未婚者の家族を含め、様々な人々が共同体を営んでいました。この伝統も今に伝わっています。我々もドミニコの家族に属する者として、それと意識しないで受け継いでいるものがあり、一人ひとり、自分の力量の中で、寄与しなければならぬ使命があります。自分の役割を果たしましょう。

今、ここで、教会に忠実に、

春の後藤寿庵祭

毎年、5月の最終日曜日に開催される「春の後藤寿庵祭」が、今年も大勢の皆様のご参加の中で無事終わることができました。

当日は、少々風がありました。雨にあたることもなく、4人の神父(高橋昌・佐藤修・川崎



寿庵祭で田畑を主区別する高橋昌神父

忠紀・ニコラス)によるミサが行われ、ミサ中に田畑の祝福も行われました。寿庵に寄せる感謝の思いと豊作を願う熱心な祈りがささげられました。

参加者は、仙台・気仙沼・築館、そして岩手県内の各教会から、さらに地元の方など160名程でした。4年前に、市が中心となり、後藤寿庵福原就封400年記念行事が行われましたが、その気運の高まりの中で、「後藤寿庵顕彰会」が設立され、その会員の参加もありました。

秋には、9月の第2土曜日に地元福原地区で行う「福原まつり」の中で、収穫感謝の「秋の後藤寿庵祭」が予定されています。

地区・教会が結びつく大切な行事として、今後とも続けて行くつもりです。皆様のご参加をお待ちしています。(水沢教会 千田和子)

創立から満50年を迎えた 喜多方カトリック千草幼稚園

1963年11月にグアダルペ宣教会によってカトリック喜多方教会が建てられ、本格的な宣教活動が始まった。その宣教活動の一環として幼稚園の設置が検討・準備された。

そして、1965年3月27日に福島県より設置認可を受けた喜多方カトリック千草幼稚園は、同年四月より幼稚園教育を開始した。認可定員は百名であったが、開園時の園児数は4歳児22名、5歳児12名の、計34名で出発した。そして、今年、創立満50周年を迎えた。この間の卒園児の数は2千名を超え、福島県の西部での福音の「種まき」の仕事が続けられている。

記念行事として、6月27日(土)、感謝のミサはお元氣になられた司教様主司式で4人の神父様方の共同司式で、厳かにささげられました。式典では、司教様、法人理事長様、行政関係、県私立幼稚園連合会関係など、挨拶や祝辞があり、年長組の子供たちの3曲の聖歌の合唱が花を添えました。



祝賀会では、行政や旧職員、他園の園長先生方からの祝辞があり、皆それぞれに思い出話に時を忘れて過ごしました。これまでの神様からの限りない恵みに感謝し、こ



れからの歩みに神様の導きを祈った一日となりました。

なお、園の歴史と式典当日のこと、そして未来への歩みなどをまとめた記念誌が、年末までに作成される予定である。毎日子どもを送ってくる、迎えに来る保護者の皆さんが、入口の聖母像に向かつて手を合わせたり、子どもに教えている祈りに一緒に加わってくれたり、大人になった卒園生が時々教会で祈っていたり、「私千草の卒園なんです」と教会を訪れてくれたり…。これからもこの小都市にあって、神様のことを伝える仕事は続く。(園長 佐藤 大)

【写真】上：教会聖堂での入園式。後ろ姿は初代園長マルティネス神父様。この子どもたちは現在すでに50歳代半ば。下右：お元氣になられた平賀司教様主司の感謝のミサ。左：年長児の聖歌の合唱

巨理に新しい修道院開設

平賀司教様、神父様方、そして信徒の皆様方にあなたかく迎え入れられ、私たち、マリアの宣教者フランシスコ修道会(以下FM) 巨理修道院が4月7日に創設されました。メンバーはSr.大垣、Sr.マグダレナ柳、そしてSr.内田の3人の小さな共同

体ですが、夢と希望に満ちて、第一歩を歩み始めました。

FMは138年前にフランス人 マリー・ド・ラ・パッションによってインドで創立されました。名前の示すとおり、世界宣教に開かれ、マリアのようにイエスをもたらすこと。それは福音を徹底的に生きた聖フランシスコの生き方を通して実現する、という豊かな靈性を生かすように招かれている国際修道会です。現在、世界に約74ヶ国6500名の会員がいます。日本は26名、その内の3名がここに派遣されたことになりました。

巨理共同体の目的は、被災から4年目の今、求められていることに応え、人々と共に祈り、生きること。県南4教会のサポート、



ト、そして、南相馬にある原町共同体と協同することにあります。

まだ2ヶ月ですが、神父様、信徒、ボランティア、地域の方々との交わりを通して、主は少しずつ、私たちに道を示して下さっていることを感じています。決まった使徒職

でも、プロジェクトもありません。でも、穂ひろいのように、誰のところでも、いつでも、どこでも、出かけていきます。どうぞ、気軽に声をかけてください。もちろん、祈りの家、修道院へも(日本家屋に間借りしています) お出かけください。(内田 雅 FM)

告知板

- ◆「靈性センターせせらぎ in 仙台」より研修会のおしらせ
 - *「一日の祈りの集い」今立っている現実から、祈って神に出会うことができるようにヘルパーが個人的にお手伝いをします。初めての方も安心してご参加ください。
 - 日時：7月20日(月)・10月12日(月)・11月23日(月)
 - 9:15 受付～16:00 その後解散
 - 会場：オタワ愛徳修道女会 paurinasco@yahoo.co.jp
 - 費用：1回 2,000円
- ◆黙想会「サダナ in 仙台」

サダナ「神への道」という意味のこの黙想会は、イグナチオの靈性を基に心理学と東洋の瞑想の豊かな実りを取り入れた祈りです。講師の指導のもと、体の感覚を意識することから始め、音を意識するなどのエクササイズを経て、感情と想像を通して無意識の世界を知り、さらには靈の領域を体験することを目指しています。各自の体験を分かち合うことによりさらにきめ細やかな指導を受け、あるがままの自分を知り、また他者の心の動きを知ることによって、深いコミュニケーションを体験します。

祈りを深め、心の解放を体験し、キリスト者としての成熟を目指しませんか?

プログラム：サダナ・I

指導 Fr.植栗 彌 (うえくり わたる) (イエズス会)
Fr.マルコ・アントニオ (グアダルペ会)

日時 9月4日(金) 18:00～9月6日(日)17:00

会場 青野木ドミニコの家 仙台市青葉区芋沢青野木2 57-1

申し込み・問い合わせ Sr.内原わさ (郵送またはFAX)
〒983-0833 仙台市宮城野区東仙台6-8-25
FAX 022-293-3675 *申し込み締め切りは開催8日前まで

大船渡教会の納骨堂と小聖堂建設

祭壇の十字架を造りました

大船渡教会の納骨堂はこの度の天津波で教会が建っているコヒドロ山という小さな丘の南側の斜面もろとも崩落流失しました。

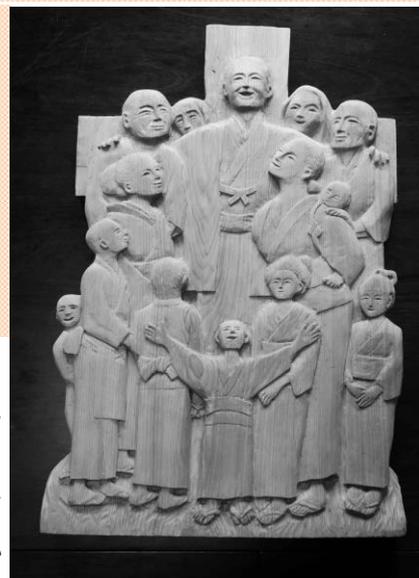
今、丘の上に死者のために祈る小聖堂を建設しています。その祭壇に飾る十字架像をどうしようかといういろいろ考えました。

死者の平安を祈り残された者に慰めを与えるための場です。

われわれの仲間になってくださったイエスさまが、生死を超えて、みんなと肩を寄せあつてしっかりとつながっている幸せを表現したいと思いました。

そうして描いたわたしの絵をヒノキの厚板にせつせと彫刻しました。2ヶ月かけて、6月13日に完成しました。表面にはクルミの油を塗りました。

教会に持って行ったらみんなとても喜んでくれました。小聖堂が落成したらこれが祭壇の飾りになります。



「心騒がせ、びくつくな。神さまを力にしている。この俺をも頼りにしている。父さまのお屋敷には、住むところなどいくらでもあるさ。そうでなかったら、お前たちのために住まいの支度をしに行くのだと、どうして俺が言うものか！ 行って、お前たちのための住まいの支度が出来たら、俺はまたも戻り帰って、お前たちを迎えよう。皆で一緒に暮らすのだ。」(ヨハネ14・1・3) / 「ガリラヤのイエシュエ」より。

(大船渡教会 山浦玄圃)

映画紹介 『あん』

監督 河瀬直美
原作 ドリアン助川

カンヌ国際映画祭「ある視点」部門のオープニングとして上映。



樹木希林が演じる元ハンセン病患者の老女が尊厳を失わず生きようとする姿を丁寧

に紡ぐ人間ドラマ。樹木が演じるおいしい粒あんを作る謎多き女性と、どら焼き店の店主や店を訪れる女子中学生の人間模様が描かれている。

II ストーリー II

縁あつてどら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々をこなしていた千太郎(永瀬正敏)。そのお店の常連である中学生のワカナ(内田伽羅)。ある日、その店の求人募集の貼り紙をみて、そこで働くことを懇願する一人の老女、徳江(樹木希林)が現れ、どらやきの粒あん作りを任せられることに。徳江の作った粒あんはあまりに美味しく、みるみるうちに店は繁盛。ところがある日、かつて徳江がハンセン病を患っていたことが近所に知れ渡り、彼らの運命を大きく変えていく…。

上映館

- 青森県 イオンシネマ弘前上映
- 中野区 イオンシネマワールド上
- 映中フオーラム八戸(7/18)
- 岩手県 イオンシネマ北上(上映中)
- 中一関シネプラザ(7/4)
- 盛岡県 イオンシネマ名取(上映中)
- 宮城県 イオンシネマ石巻(上映中)
- 中イオンシネマ石巻(上映中)
- ネ・ラヴィータ(7/4)
- 10 フォーラム仙台(7/11)
- 福島県 イオンシネマ福島上映
- 中フオーラム福島(7/11)

訂正

223号7頁「生涯養成講座」の会場は上堂教会ではなく志家教会でした。お詫びして訂正いたします。



シスターたち

―その歴史と今と―

著者 林 義子 / 発行 女子パウロ会 / 定価 1200円+税

今年「奉獻生活の年」ですが、教会の中でも、あまりその話題は聞かえてきません。そこで今回は、皆さまに記憶していただきたいと、本書を取りあげました。

現在、日本には約六千人のシスターたちがいます。日本の全人口から比べると、砂粒のような存在かもしれませんが、神に身をささげ、人々への奉仕のためにその一生をささげているシスターの存在は、現代日本の社会にとって、大きい存在だと言えるでしょう。

編集後記

司教様が札幌で入院、1ヶ月の加療とお聞きして、心配しました。幸いに2週間余りで仙台にお帰りになり、ホッとしましたが、あまりご無理をなさらないようにと思いつつも、せめて2頁のコラムだけでも書いていただけませんかとお願ひしてしまいました。そんなこんなで、今回は発行を1週間延期しました。

司教様の聖務は、私たちが想像する以上に激務なんだろうと思

ます。第一部は「修道生活について」を九章に分けて、修道生活とはどういう生活なのかとか、どうしてシスターになったのかとか、修道生活の歴史、シスターが受ける養成・たてる誓願・働き・共同体生活などについて書かれています。つまり、シスターについて知りたいと思っている、そのほとんどが分かるように解説されているのです。

そして、第二部は「日本の女子修道会・在俗会の紹介」となっています。日本にあるすべての修道会・在俗会が、50音順に見開きのページの上に紹介されています。

各会は、「創立の由来・使命と目的」と「おもな使徒職」の項目で紹介されているので、どういう精神でその会のシスターたちが生きておられるのかを知ることが出来ます。私の卒業した学校の修道会は？ とか、関心のある修道会を知ることができるようになっています。ぜひ、「奉獻生活の年」にお読みください。

います。私たちにできることは、司教様のお仕事とご健康を祈りによって応援する事しかありません。

今号から、「地区だより」の頁を設けました。今回は、第5地区、第6地区を取り上げました。毎号2つの地区を掲載していく予定です。

編集会議のたびに写真をカラーにした話が出るのですが、仙台教区のホームページに、カラーで掲載していきますのでご活用ください。(岩井)